

- 結と茅葺の里 -

秋田の集落における人々を繋ぐ結の空間と茅葺空間の提案
集落で暮らすことで文化となる“結の精神”
住民は生き方を考え、暮らしを作り、共生していく

CONCEPT

いまま茅葺屋根の残るこの集落では、かつて結の精神の下、住民がみんなで家を築き、水を引き、地を耕し、集落全体が共生した暮らししていた。そして、その文化の象徴・拠り所であったのが、茅葺屋根が演出する空間と、それと共にある原風景である。その風景には、懐かしさや心地よさなど、人の心を少なからず揺り動かすものがある。しかし、秋田では高齢化が進み、集落だけで茅葺の空間や原風景を維持するのは年々困難になっている。一方で海外にも、独自の茅葺文化が発達しており、現在では技術訓練・職業訓練として日本の茅葺文化は注目を集めている。そこで、この秋田の集落において、茅葺文化に価値観のある人々が新たな住民として共生する、新たな集落での生き方と空間を提案する。住民は“結の精神”を背景に、文化を自分の暮らしとして、拠り所を持ち、生き方を見つけていく。

秋田の茅葺文化の暮らし
-結の精神-
集落では人々がお互い助け合うことで、集落をつくり上げていた
一人ひとりの“結の精神”が共生を生み、集落としての在り方や可能性を見い出す
“結の精神”は集まることで、茅葺空間を作り上げていく
そこでの暮らしや原風景を生み出し、生きる意味を与えているのだ

海外の茅葺文化の暮らし
茅葺文化は、日本だけではなく、東アジア・欧州・アフリカ等、その国の精神により、神妙・饗宴的・都市的文化が、暮らしの中に存在する
現在、欧州では茅葺の好況にあり、日本での茅葺空間と原風景の暮らしや技術訓練・職業訓練として、日本の茅葺文化は注目されている

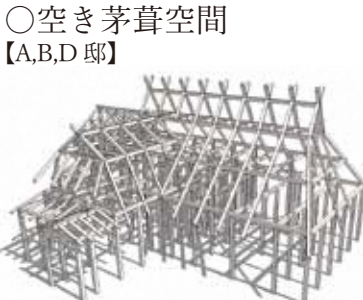
多文化共生の暮らし
共生する精神、“結”を失った集落に新たな住民が暮らすことで、多文化共生が行われる
住民は“結の精神”を再解釈し、集落での新たな生き方を文化として、見つけていく

SYSTEM- 自然の循環システムと茅葺空間の保存方法 -

○自然の循環システム：サステイナブルな建築材料「茅」



○空き茅葺空間【A,B,D 邸】

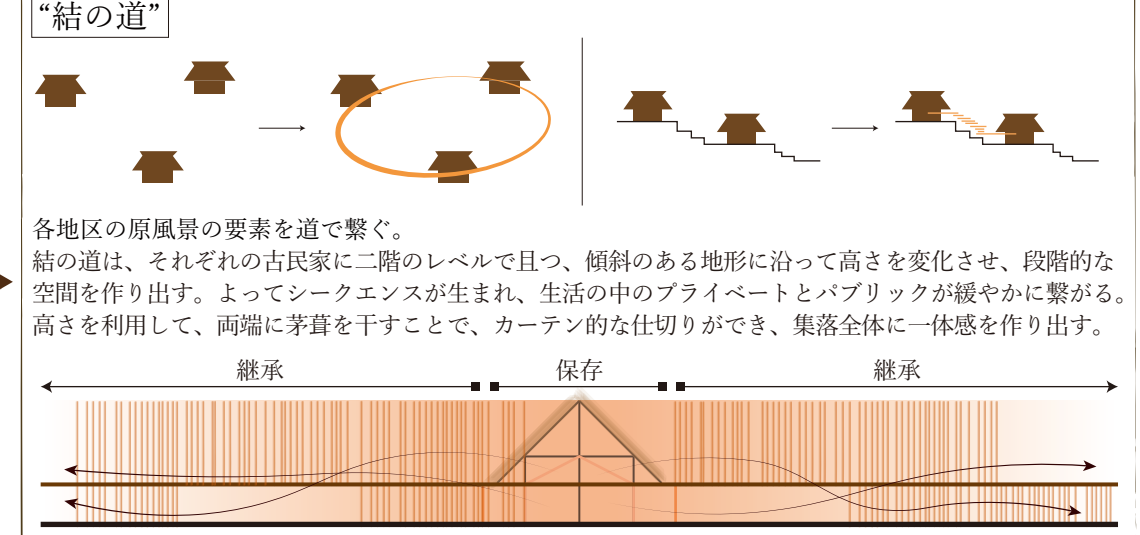
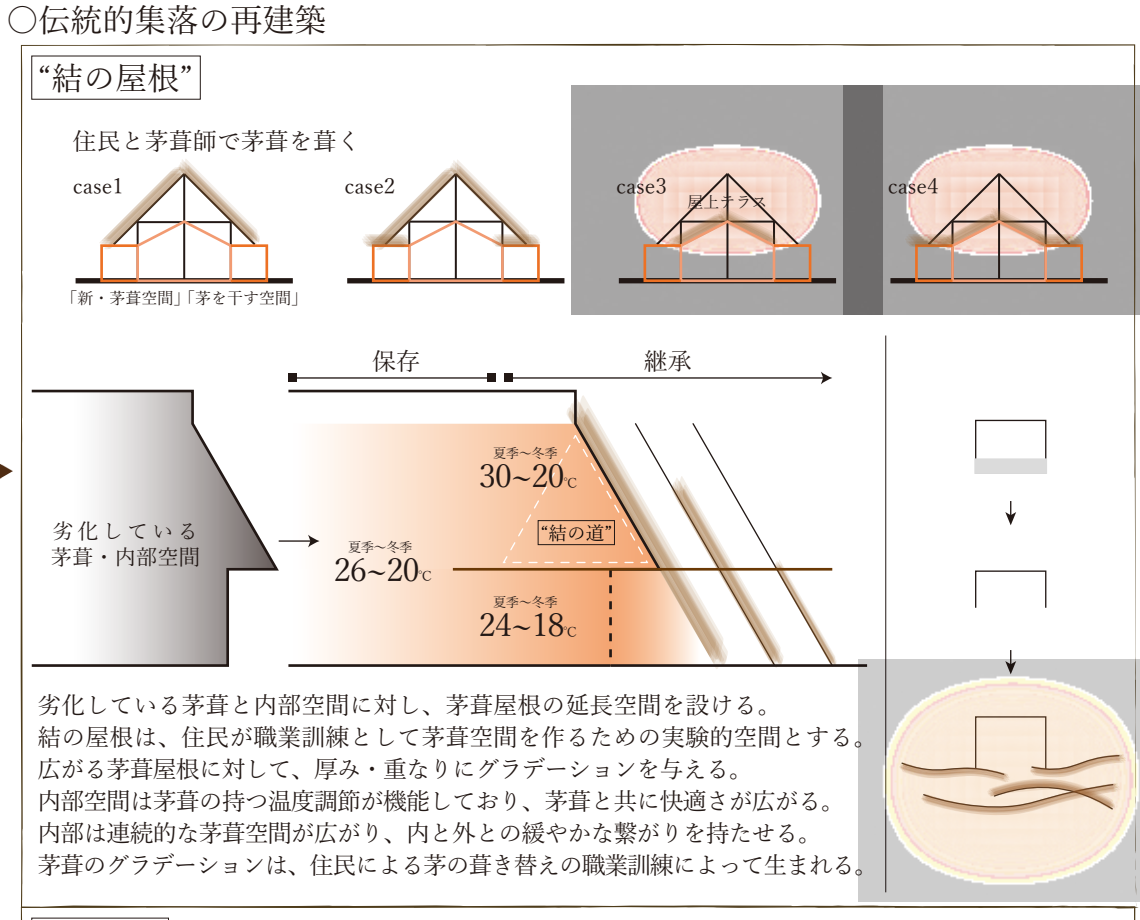


構造：木造、入母屋屋根+切妻屋根
内部空間：キッチン、ダイニング、トイレ、風呂、間戸、廊下、和室、縁側
【C 邸】



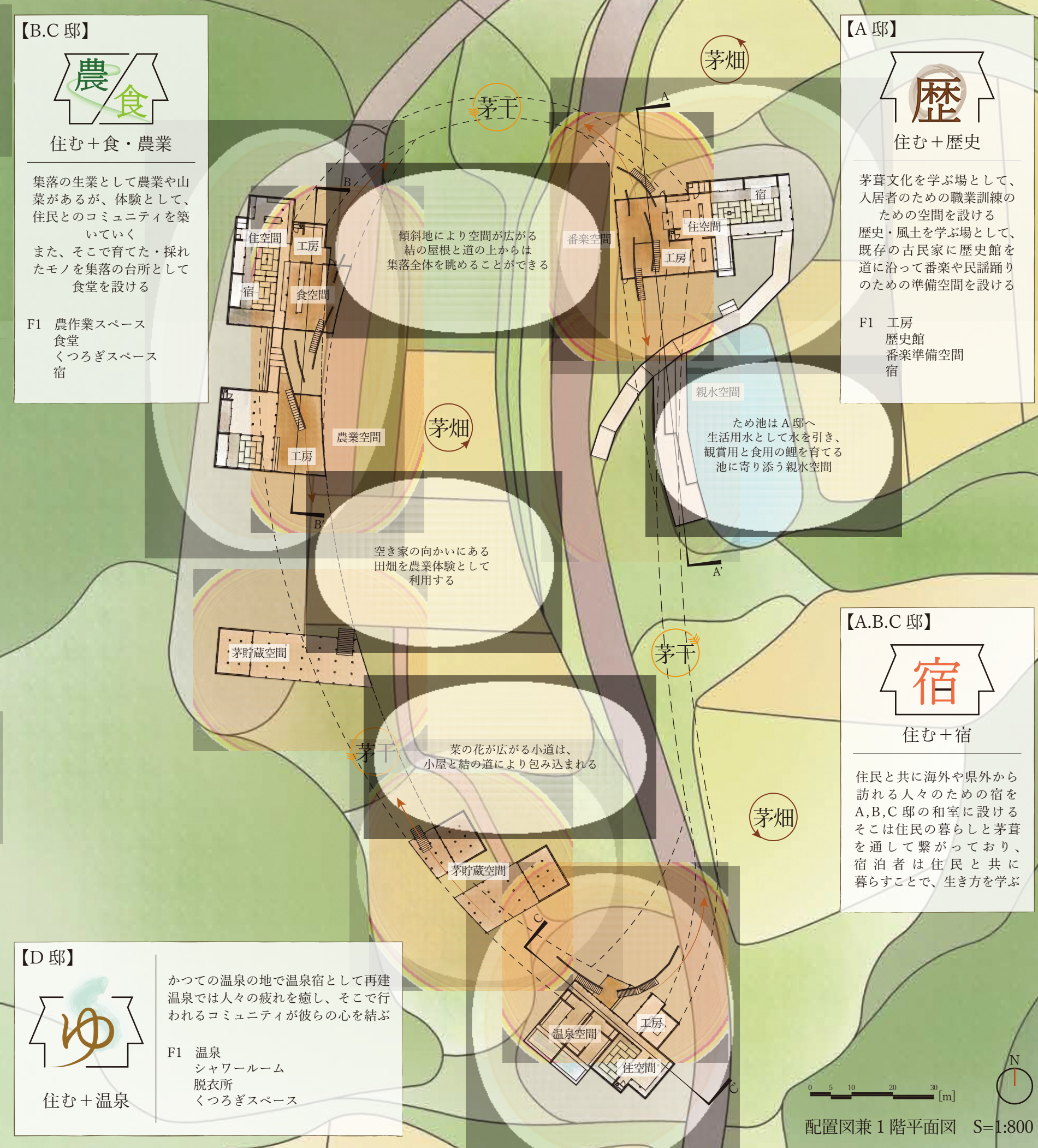
構造：木造、入母屋屋根
内部空間：「薪」を入れる薪小屋や「茅」を入れる茅小屋、かつては、モミを貯蔵していた

○伝統的集落の再建築

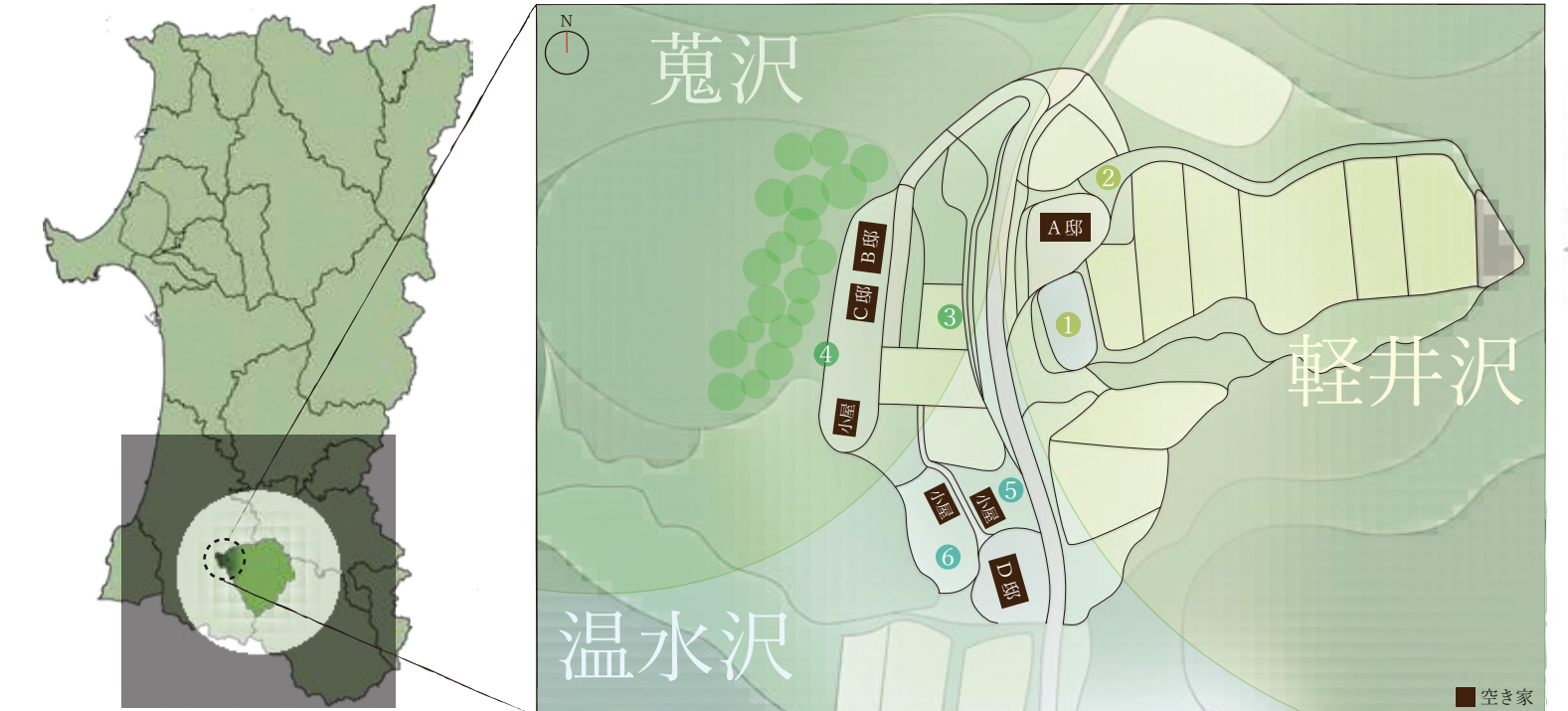


PLAN

○結の空間から構成される集落のカタチ



SITE- 秋田県 羽後町 軽井沢・寛沢・温水沢地区の集落 -



○現状：茅葺空間と共にある原風景
秋田県南部に位置し、人口約 15,000 人の羽後町。山間部には明治 40 年から建てられている茅葺の古民家が多く残っており、日本の原風景を感じさせる集落がある。しかし、羽後町には現在 60 軒ほどの茅葺屋根の古民家があり、そのうち 1/3 が既に空き家になっている。今後も所有者の高齢化によって維持困難が見込まれ、原風景と共にある茅葺屋根の空間は失われつつある。

